

岩手県東日本大震災津波復興委員会 総合企画専門委員会による現地調査の概要について

【要旨】

9月14日（水）に、総合企画専門委員会による現地調査を実施しましたので、ご報告いたします。

1 実施日／訪問先

平成28年9月14日（水）／釜石市・大槌町

2 調査者（総合企画専門委員会委員5名）

齋藤 徳美 委員長（岩手大学名誉教授）

谷藤 邦基 委員（㈱イーアールアイ常勤監査役）

平山 健一 委員（(公財)岩手県国際交流協会理事長）

広田 純一 委員（岩手大学農学部教授）

若林 治男 委員（宮城建設㈱専務取締役）

※復興局から木村局長ほか各総括課長等10名及び沿岸広域振興局から1名、合計11名随行。

3 調査内容及び参集者等

(1) ラグビーワールドカップ（RWC）のスタジアムを核とした復興まちづくりについて（視察）

[場 所] 釜石市鶴住居地区鎧坂橋付近

[参集者] 釜石市総務企画部RWC推進室 山本室長、増田室長補佐

(2) 鶴住居水門の整備状況について（視察）

[場 所] 釜石市鶴住居地区

[参集者] 沿岸広域振興局土木部 加藤部長、鎌田副部長、川原主査

(3) 水産加工業の現状と課題について（意見交換）

[場 所] 大槌町安渡地区・小野食品㈱

[参集者] 小野食品㈱ 小野代表取締役、小野執行役員、二階堂部長

(4) 仮設商店街の現状と本設に向けた課題について（意見交換）

[場 所] 福幸きらり商店街、大槌商工会会議室

[参集者] 福幸きらり商店街 山崎会長、佐々木副会長、阿部事務局長、岩間氏
大槌商工会 越田副会長

4 主な意見等

(1) ラグビーワールドカップ（RWC）のスタジアムを核とした復興まちづくりについて

【参集者からの主な発言】

地方のスタジアムというのは予想外に外国人に受けがいい。「山があつて海があつてそういう場所でラグビーが出来るというのは素晴らしい。」との認識がある。ワールドカップ時の災害対応としては、(当委員会南委員を中心にした)建設検討委員会で考えて頂いている。ワールドカップ開催後も収益が確保できるようなしくみづくりが必要。

[委員からの主な発言]

ワールドカップ時の災害対応については、早急に検討するべき。復興のシンボルでもあるので安全対策は重要。防災面では象徴的なものを作してほしい。

(2) 鶴住居水門の整備状況について

[参集者からの主な発言]

水門の高さは14.5m（大槌湾統一基準）。現在、擁壁の施工が進んでおり、いろんな工夫をしながら、工期の短縮を目指している。津波警報が出た場合、Jアラートが発動し、それをきっかけに各水門に閉鎖の信号を送り、自動で閉鎖措置をとる。4～15分で閉まる。自動で閉まらなかった場合のバックアップも考えており、手動でも閉めることも可能。監視は県庁と合同庁舎、市町村によっては市役所や消防署と、少なくとも3か所で行う事となっている。

[委員からの主な発言]

外国人が来て、これだけのすごい水門を作ったという事を伝えられるといいのではないだろうか。そういったニーズもあるかもしれない。

(3) 水産加工業の現状と課題について

[参集者からの主な発言]

震災の2週間前に大槌工場を作ったが、全て駄目になってしまい、約5億円（設備4億円＋原料製品1億円）の損害が発生した。震災後は、全国のお客さんを訪問し再開の可能性を探りながら、お客さんと事業の絞り込み（選択と集中）を行った。また、通販事業の急伸が新たな顧客の獲得に繋がった。この際に中小企業基盤整備機構、県商工労働観光部を通じてのコンサルタント（専門家）の支援が大きかった。売上ではなく、利益をしっかりと確保しようという姿勢で臨んだ。多くの水産加工業では、休業期間に顧客が離れ、人員不足と賃金単価上昇が発生するとともに、物流コストの増大に苦しんでいる。

[委員からの主な発言]

小野食品は震災で大きな打撃を受けたものの、その後、どんどん新しいものを取り入れ、企業の成長に結びついた。しかしそれは、震災の有無に関わらず、経営者の姿勢・判断・センスによるものと感じられる。しっかりと経営戦略を学び、それを自社経営に取り入れることが重要。また、地域地域で特色のある産業が生まれてくるとよい。

(4) 仮設商店街の現状と本設に向けた課題について

[参集者からの主な発言]

仮設商店街を5年でも10年でも続けていきたいが、本商店街は来年10月に退去、平成30年度末で解体されることとなっている。商店主の中に本設移転に関する認識不足が発生していたこともあり、退去時期が迫ってきている今、今後どうしていけばいいか決められない人も存在している。当初、まちづくり会社とのやり取りの中で、「今の場所で本設としてやりたい。」と大槌町に申し出たものの、宙に浮いたままであった。しかし最近では、大槌町と話しあえる関係を構築しつつある。また、本設に係るテナント料に関し、大槌価格というか勉強してもらえると、入居を考える人はもっと増えると思う。

[委員からの主な発言]

大槌町にリーダーシップを発揮して欲しいと思うとともに、大槌町と住民がかみ合う事が大切。また、住民の総意をもって、まちづくりをすすめていく必要がある。大槌町には（小野食品をはじめ）前向きな企業もあり、マイナス思考ではなく前向きに希望を持って、進んでほしい。また、外部の方とも、もっと繋がりを持って欲しい。